

磐梯山携帯トイレ

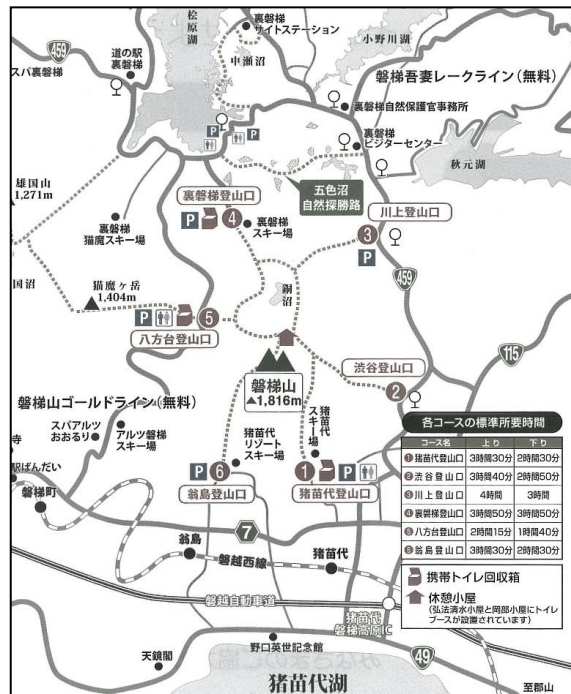
二神 紀彦（東北地方環境事務所 裏磐梯自然保護官事務所）

磐梯山登山

磐梯山（標高 1816m）は磐梯朝日国立公園の磐梯吾妻・猪苗代地域にあり、1888 年の噴火で形成された馬蹄形の崩壊カルデラが特徴的な自然景観を造りあげている。

磐梯山山頂へは 6 本の登山道が整備され、とくに危険な難コースはなく、登山初心者を始め、個人登山からツアー登山、学校登山等の集団登山まで、多様な利用者が日帰りで手軽に登山を楽しむことができる山である。

磐梯山の登山者数は年間約 3 万人で、登山利用のピークは 10 月の紅葉シーズンである。そのうち、多くの登山者は八方台ルートに集中している。ついで登山口に広い駐車場が整備されている猪苗代登山道、裏磐梯登山道の登山者数が多い。登山者は休憩小屋のある弘法清水で休憩した後、山頂を目指すため、弘法清水から磐梯山山頂の区間に集中し、登山利用のピーク時（10 時から 12 時）は本区間において渋滞が発生するなどオーバーユースの傾向がある。



(図) 磐梯山の登山道マップと携帯トイレレブース等位置図



(写真) 登山者で賑わう弘法清水
ここからさらに 20 分登ると山頂に着く

磐梯山の主要な3登山口からの登山者数

登山口		H22	H23	H24	H25	H26	H27
八方台 登山口	入山者(人)	12,882	11,062	16,900	22,271	23,782	18,021
	下山者(人)	15,970	13,209	16,247	20,551	22,112	16,666
猪苗代 登山口	入山者(人)	2,248	1,759	1,345	--	3,813	3,162
	下山者(人)	3,744	2,186	2,124	--	4,449	5,025
裏磐梯 登山口	入山者(人)	1,621	1,604	2,076	2,599	2,875	2,723
	下山者(人)	2,651	2,284	2,597	3,275	3,675	3,108
合計	入山者(人)	16,751	14,425	20,321	--	30,470	23,906
	下山者(人)	22,365	17,679	20,968	--	30,236	24,799

※5月下旬から11月中旬までの登山者数。年により設置時期は異なる。

※年により、バッテリー切れによる欠測がある。

(表の解説) 登山者の約8割は八方台登山口を利用している。

登山者数は、H24に八方台に通じる有料道路が無料化されたため、この年を境に増加している。H22に比べH26の入山者数は約1.8倍となっている。

磐梯山の野外排泄問題

磐梯山登山道における問題は、登山道の荒廃、植生の荒廃、登山道等に関する情報発信不足等があげられるが、中でも野外排泄の問題は長年の懸案であった。

磐梯山には登山口以外に山岳トイレがないため、昼食や休憩利用を伴う弘法清水、磐梯山山頂周辺における野外排泄によるトイレ紙や排泄物の散乱が自然環境保全上の問題となっていた。



(写真) 野外排泄場となっていた弘法清水周辺の笹原



(写真) 笹原の中のトイレ痕

磐梯山地域登山道調査

磐梯山では登山利用等に起因するさまざまな問題が発生していることから、平成19～20年度の間には有識者・地元関係者及び関係行政機関を交えて、登山道を中心とした磐梯地域全体の調査・意見交換を行い、整備方針等を取りまとめた。この中で、かねてより懸案となっていた山岳トイレの整備についても検討がなされている。当検討においては、既に主

要な登山口には公衆トイレが整備されていることから新たな公衆トイレの整備は必要ないこと、山頂付近への山岳トイレの整備については維持管理等のクリアすべき課題が多く困難であること、一方で、登山前のトイレ利用の普及啓発を関係者が一体となって進めることを基本的な対応方針とした。また、携帯トイレについては登山者が緊急的に必要となった場合の対応として導入を検討していた。

携帯トイレ試行

平成 22 年 9 月より、当初の対応方針に基づき改めて登山前のトイレ利用の普及を進めるとともに、携帯トイレの導入について検討するため、地元 3 町村(猪苗代町、磐梯町、北塩原村)を中心に磐梯山地域連絡会を開催し協議を始めた。数回の協議を重ね、使用済み携帯トイレ等回収体制、携帯トイレ販売協力体制について、地元 3 町村の協力を得られ



(写真) 山開きでの普及活動

る目処が付いたことから、平成 23 年 5 月から 11 月まで携帯トイレの試行を実施した。

携帯トイレ試行では、弘法清水に仮設の携帯トイレブースを設け、休憩小屋の協力を得て登山者に携帯トイレを無料配布し、同時にアンケート調査も行った。携帯トイレの普及に関してはほとんどの利用者が賛成との意見であり、また全国的に携帯トイレが普及することを望む声もあった。携帯トイレの費用負担については 300 円という意見が多いという結果であった。使用済み携帯トイレの回収も問題なく運用できた。この結果を受け、平成 24 年から磐梯山への携帯トイレを導入することとなった。

携帯トイレ導入と課題

平成 24 年 5 月には、弘法清水にある 2 軒の休憩小屋に一室ずつ携帯トイレブースを設置し、磐梯山に携帯トイレが本格的に導入された。磐梯山は単独峰で日帰り登山の山であるため、登山者にも携帯トイレの導入は問題なく受け入れられた。

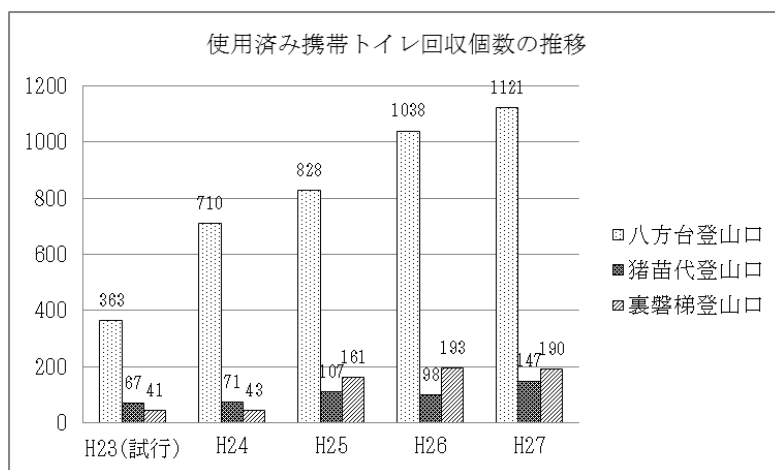
携帯トイレ事業は、地元 3 町村でつくる磐梯山周辺観光推進連絡協議会と弘法清水にある 2 軒の休憩小屋、環境省が協力して実施している。磐梯山周辺観光推進協議会は「使用済み携帯トイレ等回収運搬業務」、「磐梯山登山道パトロール業務」により使用済み携帯トイレ回収箱からの定期的な回収と使用済み携帯トイレ不法投棄に係る巡回等を実施し

ている。携帯トイレは同協議会で一括して購入し、休憩小屋で300円にて販売している。裏磐梯自然保護官事務所では使用済み携帯トイレ回収箱の設置と撤去作業や普及のチラシ作成等を受け持っている。

携帯トイレを導入して4年目が経ち、休憩小屋での携帯トイレの販売数、使用済み携帯トイレ回収数は増えつつあり、登山者にも一定程度浸透してきたと思われる。しかし、登山者数に占める携帯トイレ利用者の割合は、5パーセントであり十分に定着していると言える状況にはない。

携帯トイレの導入に伴い弘法清水周辺にある野外排泄場は閉鎖した。閉鎖した場所に立ち入る登山者は依然としているものの、その数は時折見られる程度に減少したという。一方、磐梯山山頂は携帯トイレブースもないため、人目に付かない売店小屋裏はトイレ痕が絶えないとの報告がある。携帯トイレ事業を進める上で、巡視報告等による情報を関係者間で共有し、事業の改善に活かすことが重要である。

携帯トイレの普及については、各登山口では「登山前のトイレ使用」や「山頂付近にトイレがない」ことを掲示物で周知しているが、登山口に来る以前に「磐梯山の携帯トイレ」を知ってもらう対策は不十分であった。今後、しっかり行って行かなければならない対策であり、協力を求める観光事業者やガイド団体を増やし、携帯トイレ事業の取り組みの輪を拡げていきたい。



(グラフの解説)
 使用済み携帯トイレ回収数は、平成24年に比べ、平成27年は約1.8倍と増えている。
 しかし、登山者数も同様に増えており、登山者数に占める携帯トイレ利用者の割合に変化はない。



(写真) 弘法清水小屋に増設した携帯
トイレブース



(写真) 携帯トイレブースの内部の様
子



(写真) 八方台登山口の回収箱



(写真) 使用済み携帯トイレ回収箱